

白川町総合計画審議会 会議録（第1回）

1. 開催日時 令和元年8月29日（木） 午前9時30分開会
2. 開催場所 白川町役場 分館大会議室
3. 出席委員
会 長 竹内治彦君 副会長 細江茂樹君
委 員 藤井宏之君 委 員 佐伯好典君
委 員 服部圭子君 委 員 加藤邦之君
委 員 古田文英君 委 員 山中剛彦君
委 員 鈴村雄二君 委 員 今井和秀君
委 員 山田真吾君 委 員 小栗敏弘君
委 員 安江万美子君 委 員 浅井長可君
委 員 福田喜美子君 委 員 内藤敬子君
委 員 塩月祥子君
4. 欠席委員 委 員 田口和義君 委 員 岡本保則君
委 員 後藤茂巳君
5. 説明のために出席した者の職氏名
町 長 横家敏昭君 副町長 佐藤 滋君
教育長 鈴村雅史君 総務課長 佐伯正貴君
企画課長 安江 章君 町民課長 安江文郎君
保健福祉課長 杉山哉史君 農林課長 三宅正仁君
建設環境課長 藤井勝則君 教育課長 藤井寿弘君
議会事務局長 大岩裕樹君 会計管理者 藤井充宏君
林業専門監 中島 太君
6. 職務のために出席した者の職氏名
企画係長 鈴村幸祐 企画係主査 山下直紀
OKB総研 渡邊 剛
7. 会議の経過
企画課長 開会する旨を宣告し、あいさつした。（午前9時30分）
企画課長 辞令交付について説明した。
町 長 あいさつした。
議 長 あいさつした。
(審議会委員自己紹介)
藤井宏之委員 今回、初めての経験ですので勉強させていただきたいと思います。
佐伯好典委員 今のまちづくりは町民の参加をとにかくたくさん促して、みんなで作っ
ていこうというところがスタンダードになっているようですので、この

会議だけで終わらず、町民の意見をたくさん集め、本当にみんなでや
っていけるまちづくりにできたらいいなと思っております。

他の委員で切井の方がどなたもみえないので、切井出身ということで、
その辺も少し考えながらやっていきたいと思っております。

服部圭子委員

議員をさせていただいて、この会議に参加させていただけることを本
当に良かったと思っているところです。

これからの10年は次の100年に向けての大きなターニングポイント
になると言われていますし、白川町にとってもそうだと思います。私
の思いは健康で、愛いっぱい、チャレンジすることをいっばいできて
いく町になったらいいと思います。

若い方たち、それから女性の力もいっばい引き出して、先輩に引っ張
っていただきながらこの審議会、真剣に頑張らせてもらおうと思ってい
ます。

加藤邦之委員

森林組合には組合員が2,024人います。白川町の人口減少は進ん
でいるということで、その実態を調べる必要があると思います。2,0
24人という人数で山を持ってるわけですから、林業に携わっている者
として、ぜひ生活の役に立てられるような意見が出るとういなと思いま
す。

古田文英委員

今回の審議の中では私の思いはやっぱり白川町の道路、これを何とか
計画の中に入れていただいて、10年の間に完全2車線にすることがで
できれば一番いいかなと思います。

山中剛彦委員

昨年、消防団は延べ800名ほどの出動があり、災害がたくさんあつ
た1年でした。今年は新しい体制の中で、それぞれ訓練をしています。

私は平成7年の阪神大震災のときに佐見に父親がお世話になっていた
のをきっかけに佐見に来ました。消防や商工会、いろいろな人に声をか
けてもらって仲間と一緒に活動してきたつもりです。

今の学校問題とか地域の少子化の問題、高齢化の問題、この町が広い
ということも私もこの20年で感じましたけど、審議会にお声掛けいた
だきましたので皆さんの話を聞きながら勉強させていただきたいと思い
ます。消防の立場と山中という立場で参加させていただきたいと思いま
す。

鈴木雄二委員

私は白川に来て40年ぐらいになりますが、帰ってきたころは13,
000人ぐらい、今は8,000人ということで、この数字をみたらぞ
っとするような数字です。やはり人をちょっとでも増やす必要があると
思いますけど、少数でもやっていける人づくりをしていきたいと思って

ます。観光協会の方も定住自立圏のツアー、インバウンドも見据えて、いろいろなことで今までとはちょっと変わった方向を探りつつあります。

これからもどんどんニーズは多様化すると思いますが、やっぱり今までの延長ではなくて、切り替えていかないとちょっと大変かなということをおもっています。

子どもの声が聞こえて、それから女性の笑い声が聞こえるようなまちにしていきたいとおもいます。

今井和秀委員　　これから人生100年において高齢者が元気で楽しく過ごせるそんな白川町にしていくようにして頑張っていきたいとおもいます。

山田真吾委員　　子供たちにとってよりよいまちづくり、環境づくりという点で、皆様とともにいろいろ考えて実行していきたいとおもっております。

小栗敏弘委員　　昭和60年から平成27年の間に生産人口は約半分に、年少人口が3分の1と少なくなっているのは事実ですが、やはり一人一人の子供たちが、まだこの白川町にはおります。その子たちのために少しでも良い政策になるように勉強させていただきます。

安江万美子委員　　子育て支援センターにみえるお母さんたちが元気であるように、そして子どもたちが笑顔でいられるように日々頑張っております。

浅井長可委員　　白竹作業所は、白川町の皆さんのおかげでできた施設です。
白川町の将来が私達法人の将来でもあるというふうに切実に思っているところです。特に働き手不足という部分で町に貢献できないかなということをおもっておりますので協力していきたいとおもいます。

福田喜美子委員　　社会福祉協議会では地区福祉会が5つありますが、座談会を全地区で開いていただくように、毎年、お願いをしています。今年のテーマは「20年後、30年後の皆さんの色は何色ですか」そんなテーマを持ち、座談会をやらせていただいています。また、そのときに自分たちが、将来こういふふうになるといいよねっていうようなそんな話し合いの中で、結果は出ませんけどもやっぱり多く出てくるのが、どうしても空き家が多くなり、その草が生えてきてどうだとかって、それを誰が刈るっていうような、そんな話から始まったり、声かけをきちんとしているというような話もあります。

3年前から生活支援コーディネータというものを受託し、職員が1軒1軒を回りながら、いろんな声を聞くと、本当に白川の人たちは隣近所支え合いながら、乗り合わせてお買い物に行かれたりとか、病院に行かれたりとかしていますので、町と協力して、町民の介護の負担などが少しでもなくなるような活動させていただいていますので、またここで何か

お話ができたらと思います。

竹内治彦委員 白川町さんとの付き合いはたぶん5年ということになるかと思います。先ほどからお話が出ています、まち・ひと・しごと創生の会議が始まるというところで、そういった関係からお声がけいただきましてずっと関わらせていただいております。

町の総合計画としてはその町に住んでらっしゃる当事者の皆さんが一番大事だと思いますけれども、県内いろんなところでいろんな仕事をさせていただいておりますし、多少の専門的な知識も少しはありますので、少しでもそういったところで総合的な見地からお役に立てればというふうに思っているところでございます。

内藤敬子委員 ナイトウ株式会社が前職でありまして、今、ナイトウ商店100周年ぐらいになりました。うちの祖父と祖母が高山本線の工事で白川町に移住させていただいて100年以上経つんですけれども、古い移住組でございまして。今、海外の方に物を売っております。

塩月祥子委員 移住して12年経ちました。今、白川町移住交流サポートセンターで集落支援員として黒川の地域づくりをやらせてもらっています。私は私なりの外からの目、子育て世代として何かこの会議でお役に立てればと思っています。

(幹部職員自己紹介)

副町長以下それぞれ自己紹介した。

【協議事項】

(1) 会長、副会長の互選について

企画課長 会長、副会長の互選を議題とし、選出方法について意見を求めた。

山中委員 事務局案をお聞かせいただきたい。

企画課長 事務局案をということですので提案させていただきます。

総合計画審議会の慣例では議会選出の委員の方に会長、副会長お願いしてきた経緯がございますけれども、今回、まち・ひと・しごと総合戦略検証委員会でもお世話をいただいております協立大学の竹内先生に参加をさせていただいておりますので、会長には竹内先生にご就任をいただければと思っております。

副会長につきましては議会を代表しまして、細江議員にお願いできればと思っております。

ご賛同いただけますでしょうか。(拍手多数)

拍手多数により、竹内治彦委員を会長に、細江茂樹委員を副会長に決定させていただきます。

会 長 あいさつした。

少し離れたところに住んでおまして、ある意味直接の当事者ではないという立場になります。そういったところで会長としては総合的に全体をバランスよく見ながらということがかえってそれが当事者でないところの良さになるのかなというふうに思いますので、そういった立場で皆様が気持ちよく、それぞれのお立場の皆さんの意見を反映しながら、全体的にまとめていければというふうに思っております。

副 会 長 あいさつした。

皆さん方の専門的な意見をしっかり取り入れてやっていかなければならないかなと思いますし、執行部から提案があると思いますが、それに沿って、また皆さんのしっかりした意見をいただいて、やっていければいいかなと思っております。

(2) 第6次総合計画策定について

会 長 ①総合計画策定方針について事務局に説明を求めた。

山 下 主 査 別紙により説明した。

会 長 質疑を許した。

服 部 委 員 審議会の進め方として5回ほど会議を持つというふうに事務局の方から説明がありました。

審議会は、今回のように説明を受けてそれに対する何か意見とかそういうのを述べる場というようなイメージができましたが、先ほどの自己紹介を聞いておきますと、それぞれの方がいろんなバックボーンというのか、経験ですとか、それから責任感、そういったものが非常にあるなか審議会がされますので、議論を深める、そして皆さんの知恵が反映できるような何か会議の持ち方の工夫があると、皆さんの持っているものが120%発揮できて、いい計画になるんじゃないかと思います。その辺のところをサロンですとか、町民の方々の意見を出してくっていう場合は非常にいいことですし進めていていただきたいんですが、この審議会のちょっと一抹の不安は何かこう、意見を出すだけで終わってしまうと、そんなふうではないと思うんですけども、会議の持ち方等についての提案としてはもう少しテーブル式で皆さんの意見抽出できるような会議のやり方も今は進んでいますので、そういったのも取り入れて、新しい何かを作っていくやり方など会長の方で今までのご経験もあると思いますので少しご助言いただけたらなと思います。

会 長 一般的に総合計画は、市民が参加する方がいいとか、すごい期待を持たれるわけですが、大きな自治体になればなるほどガチガチに固まっております。

まして庁内で決まったことをその通りというような形で、意見を申し上げる隙も何もないみたいなそういうところが結構多いのかなというふうに思います。ただ、今日の最初のお話でもございますようにこちらの場合それほど固まっていないとかオープンな部分というのがいくつかあってそれに対して、この場であったり、あるいは町民の皆さんの意見によって動く部分というのはあると感じます。要するに固まった原案に対して意見を申し上げて、それが修正されるという、そういう審議会ではなくって、意見ではないですが原案を作成する段階に関わりたいというご趣旨ですね。特に議員の方々なので、当然そういうご意見もお持ちかなと思います。他の自治体の経験で言いますと、部会を設置し、テーマ設定して議論するようなことを、日程を組むことができれば、それはそういう形にはなるんだろうなというふうに思いますし、あるいはいろんなワークショップとかまちづくり座談会とかそういったところに、ご参加いただくということもあるのかなと思います。

実際、私もいろいろな自治体さんで仕事させていただいてますが、よその自治体ではそういうことをしたことはございます。

私がそう答えてはいそいしましようというのもちょっといかがかなと思いますので事務局さんのいろんな流れについての考え方があると思いますので、総合的にちょっとそれは考える必要があると思いますが、今の流れを受けて事務局さんとしては何かございますか。

企画課長 先生のお話にもありましたように、審議会の中に部会を設けることができます。過去の審議会でも、そうした形で部会を設けたこともありますので、そういったことも計画をしていきたいと思っております。

会長 策定フロー図で拝見すると審議会の中に部会を組織して、そこにどう関わるかというところのイメージを作っていただければと思います。

佐伯委員 今回第1回目の審議会ということでまだ内容については議論がなかなかいかないのかなと思いますが、6次総のことを考えるにあたって5次総の検証というのは必ず必要だと思います。

スケジュール表では、真ん中よりやや下に策定主任者会議で5次総の検証について必要に応じて随時というのがあるんですけど、今回の審議会の前までには一応矢印が止まっているのでご5次総の検証というものがあって然りかなと思います。やはり次のことを決めるのに前の事の反省やら検証がなければ深い議論ができないと思っています。先ほど部会の設置についてお話がありましたが、やっぱり部会で話し合う機会があっても5次総はどうだったのかという検証が必ず必要になると思うんですけども、こ

ちら方についてはまだないのでしょうか。

鈴村係長 今ご指摘いただいた部分は策定主任者の役割ということで、後日検証を行っていきます。

当然、検証から策定ということで予定していますが、実際まだ検証の仕方の部分で他の自治体の例も参考にしながら、こういった形でその検証するのか、その検証の仕方に関してもいろんな方法がありまして、ただ事業としてできたのかできなかったのかという部分と、もう少し町民の皆さんから満足度といったような形で検証しているようなところもありますので、そのあたり動き出しができてないですが、同時に行いながら、その検証結果についても随時お知らせをさせていただきたいと思っています。

佐伯委員 確かにいろいろ検証の仕方があって町民の方々からアンケートをとるといいと思いますが、やはり時間が決まってまして、議論を深めるためにはやはりある程度、策定主任者会議の方の主観でも構わないと思うので、その検証結果を審議会委員で本当にそうだったのかっていうことを語り合うのも重要だと思っています。できるだけ早めに検証結果を出していただきたいと思っています。これについて具体的な時期ってというのはまだ出せないですか。

鈴村係長 事務的な流れとしましては、検証の部分のやり方も検討しまして、この後、策定主任者に相談したいと思っています。

今の時点でいつまでにはお答えにしにくいんですが、次回の審議会の予定が11月から12月ということですので、そのタイミングまでにまとめたものを審議会の場であげるようなイメージでおります。

一点、策定について補足説明させていただきます。全体的なスケジュールの資料にあげさせていただいております。

5次総合計画の策定の仕方と大きく今回変えた点についてお話をさせていただきますと、今までは基本構想と基本計画、さらに実施計画もあわせて検討をしながら、最終的に審議会にかけ、議会にかけていくという形をとっておりましたが、今回はそこを変えております。

まずは基本構想の部分の議論を深めていただき、来年の6月あたりに議会の方にお出しして議決をいただくような流れを考えています。

当然それにはサロンであったり、アンケートであったり、町民の意見を取り入れながら練っていきたいと思っています。その後に具体的な基本計画、事業の策定を進めていきたいと考えておりますので、そこが今までの策定の流れと少し変えさせていただいたところになります。

会長 例えば新しい庁舎を建てますとかっていつの時の基本構想とか、そうい

う形で基本構想が先にあって、そのあと基本設計で実施設計でというのはわかるんですけども、自治体の総合計画は具体的な情報なしに基本構想はこんな感じという議論をすることがどうなのかと思います。特に行政的な会議であって、政治家の方がですね、政治家として町長選に立候補されるときに、こんなまちを目指しますという話ならばそういう基本構想という形での議論が成り立つと思うんですが、無前提に構想を話しあっても財源であったり、いろんな条件がかみ合わなければ議論自体がどうなんだろうというふうに思うので、私はあまり構想だけを取り出して議論することには賛成できません。ちょうど同じタイミングで似たような、ここよりも街中で中山間地的な自治体の基本構想を同じく座長でやっておりますけれども、そこは全事業を出すという形でやっています。

全事業を出してそこの自治体がされている事業も描き出して、それが義務的な事業なのか、国の補助を受けたり、県の補助を受けている事業なのか、それともその単独の事業なのか、その事業の効果はどうかというようなことをその自治体がされている全事業について書き出して評価をして、その上でどうしていこうかっていうのも出発点として挙げていますがそれは事業ベースで作っていこうという思想だと思います。

私は岐阜市の政策総点検の座長だったんですが、2,000事業全部の事業を洗い出して全事業を見ました。どういうお金が使われてどうなんだったという事で拝見しました。

どちらかという和白川町長さんや副町長さんと5年間ぐらいはお話をさせていただいて構想ベースでというよりは、財源の裏付けであるとか、そういうものを大切にお考えではないかなというふうに理解しておりましたので、構想ベースでお話してもいいのかとは思いますが、やはり実態的な裏づけ根拠というものなしに構想を話し合うということについてはちょっと、賛成しかねるかなというふうに思います。

会長という立場でこういうふうに申し上げるのは、よくないと思うんですけども、最初のベクトルとしてどうなのかなということでお許しをいただければと思いますか。

企画課長　もう少し早く先生にご相談しておけばよかったと反省をしておりますが、まだこれから検討の余地もありますので方向性についてはまた先生とも相談させていただきながら、審議会でもお諮りをして進めていきたいと思っております。先ほど事務局の方で説明をしました基本構想ありきという考えではなく、事務方としても並行して動いていきたいというふうに思っております。

今回8年と期間も短くして全ての事業ができない中で、やはり優先順位をつけていくような、そんな計画作りになっていくと思います。

その際にやはり基本となる構想があって、そこでの選択ということも出てくるんじゃないかとそんな思いの中で構想を先にというふうに考えましたが、またご指導いただければと思っております。

会 長 もちろん理念的にどうあるべきかって、ダイジェスト版の方でございましたけれども、すごく抽象的になるわけですよ。

「水源の里の恵みいっぱい活力みなぎる人たちが暮らすまち美濃白川」こんな形ですよ。

だから、それぞれの思いがあって、これで5つの基本目標「人と人とのふれあいによるまちづくり」とか、そうだろうというところになってきます。

だから何かそこをスタートとしていても優先順位っていうのもやっぱり総合計画だとどうしても総花的になると思いますが、どっちが優先っていうのはなかなかつけにくいという中で、ベースとしての、先ほどお話ありました総括は大切だと思いますし、議員の皆さんはおそらく、そういう情報をお持ちかと思いますが、議員の方以外は、全体を把握してるっていうことは多分ないと思いますので、私としては、全事業についてシートか何か作っていただいて、その結果の一覧表か何かを早い段階で出していくのはいいことだと思います。その中で、おそらく白川町さんの場合、国の代理事務としてやってる義務的事業の方が多いのではないかと思います。国の事業を交付金等を受けながら白川町さんの事務として行われているというものがかなりを占めると思います。

そういうふうに見ていくと白川町さんの予算の中で実際自由にできるパーセントは実は非常に低いということもわかってきて、だから白川町をどうしてくだなんていう話をしてもですね、実は非常に限られた財源の中でやる必要があると思います。その中でどうしていくんだろうかっていう形で議論もできると思いますので、そういったところで各事業について、どれぐらいの予算規模でどういう事業をやってきて、それについてどういう評価をしているのかというようなことについて企画課さんだけではなくて、全庁で総括をしていただくっていうのはいいと思います。

各自治体さん岐阜市さんはこれは行革でやっていて、岐阜市さんのシートはホームページに全部載っております。

こういうシートでやってるということで、多分他の自治体さんもそういうのをあげていると思いますので、ご覧いただければと思います。

副 町 長 先ほど先生がおっしゃられたように、財源というのはやっぱりとても厳しい状況の中にありますので、おそらく今までどおりだと一般的にいいところを集めた総花的な計画になると思います。夢もある程度はその中で語られなければいけないのですが、今回は少し絞り込んだ、現実的なところもしっかり見据えた計画を作っていただければいいかなと思います。

検証については、次回までに事務局の方で準備をしていただくということになると思いますが、ものすごい事業量はありますし、それからもう一つは、どうしても国の事業に依存している部分が多々ありますのでその辺のことについてちょっとご理解をいただきたいと思いますが、おそらく事業として2,000件とかだと思いますので、全てというわけにはいかないと思います。

特に主だったものを、白川町の特徴的なものについて、皆さんにお示しをさせていただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

会 長 あと、まち・ひと・しごと総合戦略の策定も兼ねるんですね。そうすると、白川町は交付金が受けていたらこの会議で総括をしたものを出さないといけないと思いますので、次の会議に出していただければというふうに思います。

そうすると総合戦略の部分の次の予算請求の事業計画なんていうのもお持ちだと思いますので、それをご説明をいただきたいと思います。

会 長 ②人口ビジョン等について事務局に説明を求めた。

鈴 村 係 長 別紙により説明した。

○ K B 総 研 補足説明した。

会 長 この人口の推計は自然減、それから社会移動がこのまま続くとこれだけ減りますよということで変動可能な数値としては概ね社会移動のところだけだろうと思います。

自然減のどれだけ生まれてどれだけ亡くなるという部分についてはほぼほぼ決まった話でこれはまず動かないというふうに一般的に言われております。

相当減っていくということで、しかも減り続けるんです。岐阜県のいろんな自治体さんでも減った後、ある程度そこでなだらかになっていく傾向があるんですけど、そのまま減り続けるっていうのはおそらく若年層の流出が激しくて、お母さんになる人がいないので、人口の再生産があまり行われな、出産件数が非常に少ないというところが多分原因になるんだと思います。

ですから対策としてはですね、そういうある程度の若年層を引き込まないと難しいだろうと思います。

若年層を引き込むとすると、どんな仕事があるかっていうところで、おそらくこの地域ですと第1次産業の役割というのを無視することはできないだろうというふうに思います。

結局遠隔地のところで、土地が広くて、そこでないとできないことっていうのは第一次産業系のことしかないので、どうしたらそういうものを魅力的にできるかというところの地道な部分が実際その町のビジョンとしては考えられるかと思っています。

おそらくこの地域である程度の規模の製造業という話はなかなか成り立ちにくいと思いますので、今の岐阜県のビジョンの一次産業とか6次産業といったようなもの、発展可能性みたいなのが一番ある程度の数を作るとしたらありうる場所なのかなと思います。そういうもののブランド作りに寄与しないことはなるべく避けた方がいいだろうと総論的に人口をみていると思うところです。

非常に減っていく予想だと、この人口の予想はほぼ確実なので相当努力しないと、この流れっていうのは、変えていけませんということです。

あと移動先は愛知県が多いというのを感じますし、転入も愛知県が多いですけど、結構距離の大きな移動が大きいというのが特徴かなと思いますので、そういった点でも、課題というのは結構大きいのかというふうに思います。

質疑を許した。

鈴木雄二委員

今の先生の話でも9,500人いた人口が、今8,000人ぐらいになっているということが引かかるんですけど、検証していただきたいと思いますし、人口の将来展望というところで2040年にそのまま推移すると5,101人っていうのが、将来展望では5,602人ということなんですけど、この数字は先生がおっしゃったように、社会減を0にするということです。

これはすごい数じゃないかなと思うんですけど、実際に0にするにはどうするのかということも議論しておかないと、8年経ったらもっと減ったということではまずいと思いますのでじっくり検証していただきたいと思います。

会長

目標として正しいかということもありますし、現状そのように進んでないと思いますので、なかなか人口総数というのは結果なので、何がどうしてこうなってるっていうところは難しいかなとは思いますが、社会移動の

どの部分が厚いのかなというところをコンサルタントさんなどの協力を得ながら少し細かく検証いただければと思います。

年齢層であるとか、そういう部分で、やっぱり若年層の流出が今でも多いのかどうかというところが、特にそれが何歳ぐらいなのかというところで、やはりしっかりとそこはとらえていかないといけないかなと思います。また流入もそれなりの規模があるので、どういった人たちなのか、トータルとしての数がどうだと言わなくて、その中身を見て、そこから手当する方法を考えないといけないかなと思いますので、その中身の分析を少し細かくお願いできたらと思います。

教育のところ少し話題になっておりましたので、校長会長の山田先生どうでしょうか。

山田真吾委員 人口の推移を見て減るってことはわかっていたんですけども、ちょっと愕然とした心境で、これから白川町の人口は、また子供たちの生活はどうなっていくんだろうかっていうことを心の中で思い浮かべたときにちょっと心配が広がりました。

私は川辺町出身で可茂地区に住んでいますが、川辺町がそれほど人口の推移はないということではあるんですが、それでもやはり将来の子供たちのことを考えると学校の再編、今から10年、15年後を考えてやっつけなければということで今話し合いも進んでおります。

白川町でも教育長さんを初め、学校再編検討委員会の小栗さんを含めて、子供たちの将来のことを考えて、どんな教育環境が大事なのかということで今検討を進めていただいているところです。

学校としてはどうかということなんですが、とにかく子供たちが学校で安全安心に過ごすことを大切に学校経営、また教育関係を進めております。

さらに学習および学校でのカリキュラムのことなんですけれども、これはとにかくふるさと教育、子供たちが故郷白川に愛着と、そして誇りを持つようにということで、子供たちがここで生まれ育ち、そしてこれから社会に出ていってもふるさと白川を大切にするという、そういうことを大事にしながら、白川の文化とか産業とか自然の豊かさとか、そういうものを大切にしたい教育を進めております。

しかし、本当にこれからどんな社会を迎えるかっていうことを考えたときに今のままでいいのかと考えさせられます。もっと学校としてやらなければならないことがあるのかと思います。具体的にこれからどうするかということについてはまた校長会でも考え、教育委員会の指導を受けながら進めていきたいと思っています。

会 長 学校の再編の話がございました。学校の再編というのは地域の形とか、非常に大きな影響もあるかと思っておりますのでお話できるところで何かございましたらお願いいたします。

小栗敏弘委員 学校再編に関する答申が9月3日にされますので、とりあえずはその答申が終わってからということで、また皆さんの方にはお話をさせていただきたいと思いますが、私が一番問題なのは少子化だと思います。

急速な少子化が進んでいるということで、それをそういった面でどういう政策を打っていくのか、やはり親が子育てをこの町でしたいという教育体制をつくっていくことで、小学校に関してはやはりできる限り残していくことを教育長さんもおっしゃられてますし、私達もそう思います。地域に学校がないっていうのはやはり親にとっても子どもたちにとってもこれはプラス材料ではないと思います。

かといって、財政の問題とかもいろいろありますので、やはりそこは相談をしながら統合も検討していくという形ですが、再編検討委員会ではいろんな意見がでました。

地域ごとにやはり意見が全て違うというような感じを覚えました。例えばですが、黒川は残したい、それから佐見は小学校はどこにしたい。

ただし、中学校が統合しても佐見小、黒川小は残したいというような意見も出ております。

今回は、そこを踏まえて答申をしたいと思いますが、私はやはり親がどう思うか。白川町で子供を育てたいっていうような環境を整えていくのがいいかなって思います。

令和27年の年少人口、今の生産人口、それから高齢者人口の軸をたどってみました。このままの推移でいくと、白川町の場合は、子どもたちが100名ぐらいになっていくと思います。

私は教育で人口減少それから少子化を食い止める政策、何とかできないかと思えます。こういう政策を打ったから例えば少し増えたとか、止まったとか、それをしっかり検証し、今後の政策もそこを突いていきたいなって思います。

会 長 子育て、子育て支援の話も出ております。

安江万美子委員 支援センターにいますと生の声が本当によく聞こえてきます。面白いのが、お母さんたちの話なんですけど黒川のお父さんたちは、どこかに行っても黒川に育ててもらったから黒川に帰らなきゃっていうことを言って、奥さんや子供を連れて帰ってくると話してくれます。やっぱり黒川の人たちがその地域でそうやって子育てをしてきたんだっていうのをすごく感

じています。他の白川とかいろいろなところも本当にいっぱい子育てを頑張ってるんですけど、何かやっぱり不便とか、それからどこへ行くにも遠いとか、そういう声が出ています。

本当に今いるお母さんたちは一生懸命子育てをしています。第1子、第2子、第3子と育てていく中で親として素晴らしく成長しているので、本当にそこを応援したいと思ってるんですが、人口の減少というか産む人がいなくなっても第3子までみんな産んでるので、そうすると4人目、5人目頑張ってるっていうふうな話になってしまうんですけど、そこまで私達もいけないので支援センターとしては今は本当に今いる子供と親さんを大事にしていくことが今自分たちのやっていくことかなと思っております。

塩月祥子委員 この人口推移を見ると、絶望してしまうような数字なんですけども実際私は白川町に住んでいて絶望した気持ちを持っていないですし、逆に白川町には希望があると思っています。

この数字はこのままの白川町を続けた場合の数字なので、これだけの危機感を持って皆さんが何とかしようと思えば、何か変えれば変わる数字なんだと思っています。

今、私は黒川という地域に住んでいてお母さんたちは本当に子育てを楽しんでいるし結構外からきた、特に川辺とか美濃加茂とかで育ててその後黒川に保育園に上がる時に戻ってきたりとかその前に戻ってきた方もたくさんいらっしゃるんですけど、そのお母さんたちが黒川に来て良かった、子育てできて本当によかったという話をよく聞きます。

子育て環境としてすごく白川町は魅力的な場所だと思っています。

それをもっとみんなが自覚することが必要かと思います。

福祉の面でもすごく恵まれていると思うので暮らしやすい町だと思っています。皆さんが悲観的な気持ちでいると、多分悲観的な結果が出てしまうんです。

現実、人口は減っていくかもしれないですが、日本全国どこも人口が減っていくので、私は人口減ることはそんなに恐ろしいことではないと思っています。やっぱり住んでる人たちがどれだけ満足できるかっていうところで、出ていく人も減っていくと思うし、逆にこっちに来たいっていう人も増えていくと思います。

私は今、移住交流サポートセンターにいるんですけど、問い合わせも増えているようですし実際に移住したいという人も昔のイメージだと、老後田舎でゆっくり過ごしたいっていう感覚だと思うんですけど、今は子育てファミリー層で移住を考えている人たちが増えているように思います。

そういう時代だと思うんです。自分も実際都会で子育てをして、こういう田舎に来て本当に良かったと思いますし、都会で悩んでいる人たちはみんなこっちに来ればいいのにと思っているくらいです。

本当に素晴らしい子育て環境があると思いますので、あんまり数字を見ていると、いかに白川町消滅させていくかっていうような政策になってしまうんじゃないかと思うんですけど、そうじゃなくて本当にもっと小さいところで今住んでいる1人1人が満足できれば白川町は残っていくと思いますし、さらに人も増えると思います。

目標値とかを設定する必要があったり、人口の将来展望っていうのがあるんですけど、これを先ほど会長さんもおっしゃられましたけどももっと小さい単位で特にその子育て世代とかほぼ増やすような目標にして、その子育て世代を増やすっていう政策に重点を置けばその目標値を使って今の子育て世代よりも上げていくっていう、どこか一つでも上げる目標値を作って、そのための政策を考えたらちょっと希望を持てるんじゃないかなと思いました。

会 長 基本的には子育て世代をどう呼び込むかというところが人口的にはどの自治体も考えることなんですけども、そこがポイントだろうと思います。それから岐阜県全体でも人口は減っていくと、その減るのをどう止めるかっていうことと、減った中でどう暮らすのかということも、ずっと前から言ってることなので、減ることはおっしゃる通り、日本人は減るわけですし、その中でどう地域社会の活力を維持するかということが大事だと思います。

福田喜美子委員 緑がいっぱいある、川も綺麗で、そんな白川での子育ては本当にしやすくて、環境もいいかなと思います。

社協が結婚相談員さんに結婚相談をお願いしていますが、なかなかマッチングができない。結構年齢のいった方もあるんですが、小さいイベントをしましょうということで運動してくださっていますが、なかなか女性が集まってこなくて結局流れてしまって、もう1回やろうかなっていうようなそんな話を結婚相談員さんたちがやってくださってるんですが、なかなか結婚がうまく成立しないのが現状です。

子供が高校に上がったとき、以前から佐見とか黒川につきましては公共交通もいいかもしれないが、なかなか駅まで行くのが大変で、川辺の辺で住みましょうかって言って、うちの職員も実際親子で2、3年出て行く人もいます。本当に子供が高校卒業してちゃんと4年目に帰ってきてくれるか。便利さに慣れてしまい病院も近かったりするとやっぱり高校問題がど

うしても出てきてしまう。今、黒川に帰ってきて自分の望んだところで働けるかとか、自分はこうなりたいて皆さん夢を持っているいろいろ就職されると思うけど、川辺町に白川町があるような感じで出てしまうというのはそんな現状の中でのいるんですよね。

だから今、福祉の面について言われますと、本当に白川町は可茂管内の中でもいろんな事業を補助金いただきながらやっているの、お年寄りの人たちというのは地域の繋がりも良くて、本当に困ったことというのは車に乗せてってくれるのが一番の願い事では助かってるよってというような現状なんです。白川はお年寄りの人たちが元気でいけださればそれでもいいんだけど、やっぱり一番問題はその生産人口の人たちがいかに白川に残っていただける状況で、高校とか大学へ行ってもやっぱり白川で働きたいなっていうところを引っ張り込めればうまくいくと思います。今年4月に採用した職員の1人は、大学を出て最初から白川で働きたいと、そんな思いで来てくださった子がいます。白川に住み続けたいというような思いが伝わればいいと思いますが、やっぱり子供には好きなことさせたいし好きな道を歩かせたいよって思ったときに疑問が出てしまう。その辺をどういうふうに町の戦略として持っていけるかなっていう工夫がまた皆さんで話し合えたら、まだまだ子供は残れるかなと思います。

浅井長可委員 今働き口がないという話もあったんですけども、働き口はうちにありますっていうのがまず1つと、入所者は58名の障害を持った方がみえまして蘇原筋はですね、2065年には639人と人口の1割はうちの利用者ということになってしまう。それを考えると、もうこの頃にはうちの施設はないのかなと思っています。

部会の持ち方についてはどのような形ですか。

福祉という部分で話せる部分もあると思うんですけど出来たら移住定住関係の部会とかそういったところで何か協力できる所ないかなっていうのを思ってます。ぜひそういう部会にも入れていただきたいなというふうに思ってます。

うちの働き手の中で農業がしたくって、白川町に来ました。でも農業だけでは難しいので仕事もある程度安定した仕事をしたい。そういった方も何名か出てきております。現状、課題もありますので、その辺も少し話ができると思っています。

5次総の時の人口の予想と現在の人口がどんな形になってるのか、どれぐらい差があるのかなとちょっと知りたかったのでまたどこかで教えていただければと思います。

加藤邦之委員 福祉と教育というのは中心になってくると思います。あとはいかに福祉の仕事を作るかということが課題かと思います。

白川町へ来てもらってそこで食べていけて、子供を学校へ送り出せるような仕組みを作っていくことは大事だと思います。

そういう点において森林組合は大きな役割を持っておりますが、今のところ力不足で申し訳ないと思います。

今プラスチックを紙にしようじゃないかということで研究しております。極端な話ですが、例えば白川町としてプラスチックを廃止するとか、小学校の机を全部東濃ヒノキにするというようなそういったものを打ち出していくとか。そういった関係で情報交換をしたいと思います。人数が減っていく中で、これからどういう形で皆が連携して情報も共有しながらやっていけるかっていうことが大きな課題だと思います。

佐伯好典委員 子育てはすごくいいところがあったんですけども、これこそ検証すべきことだと思ひまして、なぜ黒川のあの人たちはちゃんと奥さん子供連れて帰ってくるのかというのは今後のことを考えることで重要だと思います。

今全てのもの、人口から何から何まで減ってるんですけども、そんな中でも白川の中で増えているものもあると思います。

それは増えてマイナスのものもあればプラスのものもあると思います。

僕でもわかるものは有機農家は増えてます。この増えているものは、今後の白川の種というかも芽が出てるんじゃないかなっていうふうに思うんですけども、そのことをきっちり検証して、なぜ増えているのか、増え続けているのか、増えて止まっているのか、同じ数をキープしているのか、その理由をきっちりと見る、そしてそれを応援していくことが必要ではないでしょうか。

その増えていくものをお金に換える案っていうものがもしあれば、すごく今後良いものになっていくと思います。

そのための戦略そういったことしっかきまず数字を出して皆さんでその数字に対して話をしていくっていうのが重要だと思いますのでそういったデータをできるだけ出していろいろお話を今後していただけるような環境を整えてもらえたらと思います。

藤井宏之委員 人口減少は当然私も同じ考え方なんですけども、基本計画というか素案を作ってください中に、関係人口を増やすとかそういった政策も取り入れていく必要があると思います。それぞれの地域でその地域を応援してくれる。そうした関係人口を増やすというのも一つのこれからも政策の中の一つであると思います。

古田文英委員 白川町内でも事業所はありまして、なんか人が足りないということでどうしても外国人を増やしていくというようなことの傾向があるんです。

でも若い人がいれば、雇わなくてもいいんだけど、外国人を入れざるを得ないと。そんな中でどうやって地元の若い人に勤めてていただくかっていうことを考えるときに何か税制面の優遇措置をとるとか、それからUターン、Iターンを促して、そういったところへ勤めてもらえれば所得面も安定してくると思うんです。何とかしてそうした若い人に定着してもらわないと、せっかくある事業者が撤退していかざるを得ないようなことに将来なってきますのでなんとかしてそうしたことのないようお願いをしたいと思います。

企画課長 その他意見がなかったので、閉会にあたりあいさつした。

会長 閉会を宣した。

(午前11時30分)